

プロジェクト後期4年を迎えるに当たって

連合四役会は総合的な判断に基づき、シオン山教会に後期4年間の協働教会をお願いすることを決めました。このたびシオン山教会より受諾のお返事をいただきました。

前期センターサポート教会の東八幡教会は、連合事務局を2012年度から受け入れ、宣教支援センター準備委員会の頃から今日に至るまで、献身的に祈りかつお支えくださいました。これまでの多大なるお働きに、心からの感謝申し上げます。

後期4年間は連合の各委員会が「教会の強化」「連合の活性化」を目指していくことを申し合わせています。背後には祈り心をもって、毎月の宣教支援センター支援献金をささげくださっているお一人お一人がおられます。初心を忘れることなく、私たちは教会を新たに作る運動に励んでまいります。今後ともご支援ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

(山田雄次)



東八幡教会で行われた感謝会より

編集後記

2月11日(月)連合信教の自由を守る日集会在シオン山教会で行われました。講師は藤田英彦先生(社会ヤスクニ委員長・東八幡)、テーマは「終わりなき自由への闘い」でした。このところキリスト者としての信仰告白を求められる事態が相次いでいます。「子や孫に(靖国神社法案や建国記念日などの)抵抗運動をしたことを語り継いでいかなければならない」との言葉を、切実な思いとして受け留めました。実存をかけた闘いというものが、時には必要になることを思わされました。(齊藤弘司)



次回予告

次号(5月発行)から連合ニュースと統合する予定です。新しい紙面にご期待ください。

4月・5月の予定

4月 4日(木)連合役員会(シオン山)18時半
21日(日)イースター

29日(月)連合年次総会(シオン山)10時

5月 19日(日)大分地区カルト予防セミナー
(別府国際)15時

～～～
宣教支援センター事務局は4月2日(火)から、シオン山教会(教育館3階)に移転します。

事務局 電話 080-9053-9108

FAX 093-561-0760(教会と共用)

メール bapukitakyucenter2015@gmail.com

宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP: <http://bapkitaq.jimdo.com>

パスワード: kitag2015



連盟全国支援・地域協働プロジェクト バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 33号



発行責任者：山崎克明
発行所 〒803-0846
北九州市小倉北区下津2-15-21
Tel 080-9053-9108
Fax (093)561-0760
シオン山教会教会教育館内
連合宣教支援センター事務局
発行日：2019年4月3日

特集 遠賀川流域教会とは何か

第2回 遠賀川流域教会交流会報告

プロジェクト後期4年を迎えるに当たって

写真：連合牧師会・送別会

(2019/2/25 小倉教会)



連合の4年を振り返って

北九州地方連合会長 山崎克明(富野)

宣教支援センタープロジェクトも、新年度からいよいよ後半期に入ります。このプロジェクトがここまで順調に展開できた背景には、東八幡教会の献身的な働きがありました。

同教会は、プロジェクトの準備段階から先頭に立ってリードしてくださり、次いでセンターサポート教会の責務を引き受けて、主事の働きを支え、プロジェクトの推進に大きく貢献してくださいました。同教会の働きにより、センターの目的である「教会の強化と連合の活性化」の達成に向けた連合の働きが確実に醸成され、期待を込めて後期に臨むことができることを、心より感謝しています。

このプロジェクトは、2015年度から2022年度までの8年間で、教会の強化と連合の活性化に集中して取り組み、北九州地方連合を変革するという、大きな夢のかかったプロジェクトです。ここでわたくしは連合会長として、前期4年間の活動の評価を試みたいと思います。

第1に、連合機構改革の一つの到達点として、規則・細則の抜本的改正を行いました。そのポイントは、教会を「連合活動の主体」と位置づけたことです。その具体的表現が、委員を派遣する教会は当該委員会の「サポート教会」になるという、「サポート教会制度」の導入です。

第2に、教会間の連携が次第に広がってきました。その1つが「遠賀川流域教会」の活動です。こうした地域教会連携の動きは、豊前・大分・別府国際・臼杵の教会間や、防府・小野田の教会間でも見られるようになっており、今後ますます盛んになって行くものと思われまます。

第3に、教会を積極的に地域に開こうとする試みが注目されます。

その一つが、防府教会のミッション・ステートメント、「少しでもおせっかいしますー地域のコーディネーターになる」を具体化した「子どもひろば」の活動です。元教師の学習支援ボランティアが与えられ、家庭環境の厳しさから心を閉ざしていた子どもが、教会で悩みを打ち明け、希望を語る事が出来るようになっていきます。また、学校の先生方や地域の児童委員との連携の中で、出会った子ども達を支える体制ができてつあります。

これと似た活動をしているのが南小倉教会の「水ようひろば」です。子ども達は宿題に取り組んだり、大人も本を読んだりして自由に過ごした後、栄養のバランスが取れた「水ようごはん」をみんなで食べます。そして「聖書の学びと祈りの会」に続きます。参加は自由。いつ来ても帰ってもよいことになっています。

また東八幡教会では、登録制で礼拝動画をインターネット配信する「星の下伝道」や、「人は何のために生きるのか」を問い直す場である「荒生田塾」、楽しく食べたり、飲んだりしながら語り合う「語り場BAR」などが行われ、今日的なキリスト教伝道の可能性に果敢にチャレンジしています。

教会を積極的に地域に開き、地域と連携・協働する活動は他の2, 3の教会でも始まっております。神の国は私たちのただなかにあります。わたくしは、今後さらに具体的な課題において、複数教会と地域との連携がみられるようになることを願っています。教会もまた地域共同体の一員であるのですから。

郵便振替 01590-7-3255 加入者名 バプテスト北九州地方連合
通信欄に「宣教支援センター支援献金」と明記してください。

特集 遠賀川流域教会とは何か

若松教会の吉田敬太郎牧師は、遠賀川流域伝道の幻を掲げて、若松教会二島伝道所(1980年閉鎖)、中間教会(1952年教会組織)、直方教会(1950年教会組織)の設立に大きな役割を果たしました。その後、第二次ベビーブームが到来すると、「筑豊伝道協議会」の名の下で、お互いの教会キャンプ等に奉仕者を送り合う協力伝道を展開していたそうです。

このような歴史を知った原口徹牧師は、中間教会の安部寅彦牧師ご夫妻を訪ねてお話を伺うなどしながら、遠賀川流域伝道の幻を追いかけました。

2017年度、直方教会が中心になり、高須・芦屋・飯塚の各教会に八幡教会がオブザーバーとして加わる形で、「遠賀川流域教会」という協力伝道体を立ち上げました。月1回の牧師会、年1回の信徒を含めた交流会を重ねながら、若松・八幡西および筑豊地域における将来の宣教協力の可能性を追い求めています。若松・折尾・中間・光の各教会が、この輪に加わる日を夢見ながら、共に祈りを合わせています。

2月17日(日)に芦屋教会を会場に行われました交流会の報告を、高須教会の三上牧師にお願いしました。地域教会に共通する課題に注目して、何が出来るかを一緒に考えていこうとしている様子を感じ取っていただけましたら、幸いに存じます。(齊藤弘司)

遠賀川流域教会の場所



第2回 遠賀川流域教会交流会報告

昨年に引き続き第2回遠賀川流域教会交流会(以下交流会)が2月17日(日)午後2時30分より4時まで芦屋教会で開催された。今回は「教会おじゃましますプロジェクト」が合流したこともあり、遠賀川流域教会【飯塚・直方・芦屋・高須・八幡】の他に5教会、計10教会より48名の出席者が与えられての集会となった。

今交流会のテーマは「無牧師教会の課題を共有する」である。芦屋教会が無牧師であり、また直方教会も4月より同様になる。そのような状況の中で、遠賀川流域教会牧師会で今後の協力伝道及び交流を考えると、隣りにある教会の「無牧師」という現実を避けて通ることは出来ず、各教会の課題として受け止めるという共通理解を持つに至った。その共通理解を各教会で吟味し、種々の課題がある中で教会間のテーマとして受け止め、今回のテーマとして設定されたのである。

プログラムは原口悦子牧師の司会で、流域教会合同トーンチャイムの前奏から始められた。その後、高須、飯塚、八幡の各教会の現状報告がなされた。

そして今交流会のテーマの下、現在無牧師の芦屋教会、これから無牧師になる直方教会、これまで無牧師だった若松教会より、それぞれ発題をしていただいた。

発題は教会における「無牧師教会」を否定的に受けとめるのではなく、むしろ牧師に依存しがちな状態から、より信徒の自発的な教会形成及び教会運営のあり方を模索し実践する良い機会である、との肯定的な報告がなされた。特に、若松教会からはこの一年間、牧師の招聘を続けながら、説教を含めて信徒が出来る奉仕の可能性を共に分かち合い且つ実践することの出来た恵みをいただいたとの報告がなされた。また無牧師を経験した教会として、喜んでこの課題を共有したいと考えている、との報告もなされた。

各教会からの発題を受けて分団毎に話し合う場に移ったが十分な時間が取れず、その点は少し残念だった。しかし「無牧師教会」は現在の、そして今後の連合・連盟の大きな課題であり分団としては短い時間ではあったが活発な話し合いがなされた。

最後に出席者全員で「主の祈り」を祈って会場を後にした。会場を提供して下さった芦屋教会に感謝して。(高須教会牧師 三上渡)

